

予報期間 7月9日から7月15日まで

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 台風第4号については最新の台風予報を参照。
- 11日は、高気圧がオホーツク海から千島の東へ移動する。
- 11日から12日は、気圧の尾根が北日本から黄海付近へのび、日本の南から東シナ海にかけて気圧の谷となる。
- 13日から15日は、気圧の谷が日本付近をゆっくりと東進する。

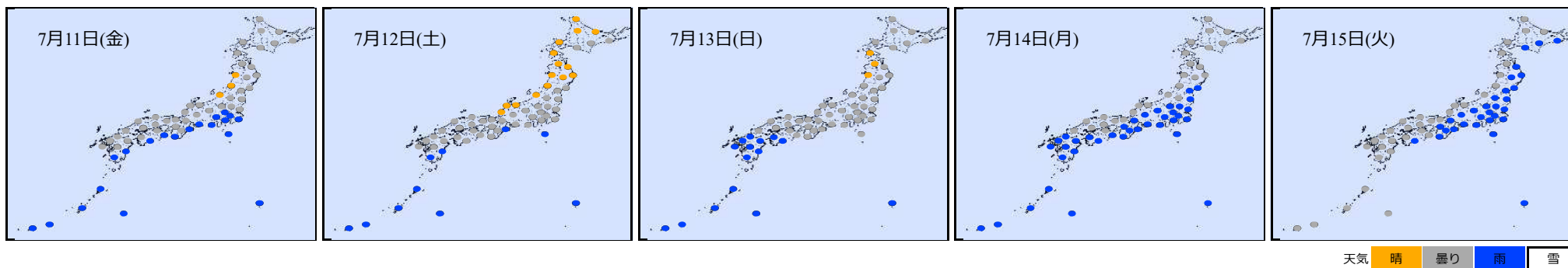
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 北日本から西日本にかけては、気温がかなり高くなり、最高気温が35度以上となる所がある見込み。熱中症など健康管理に注意。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

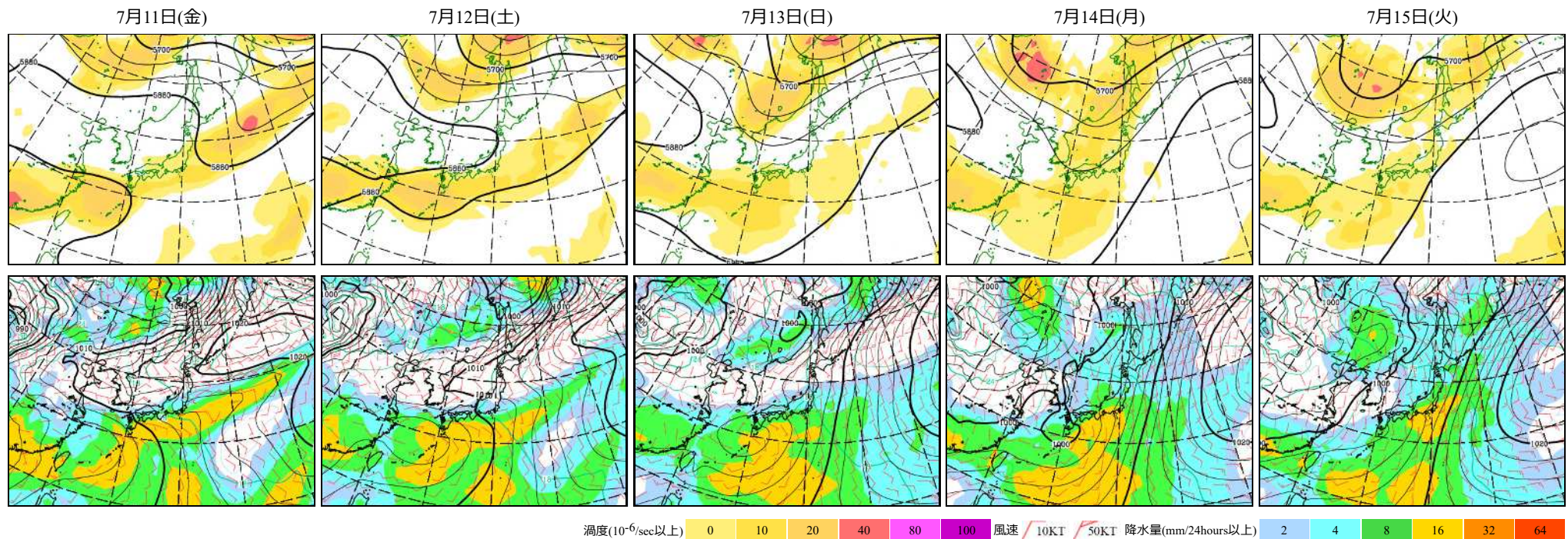
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

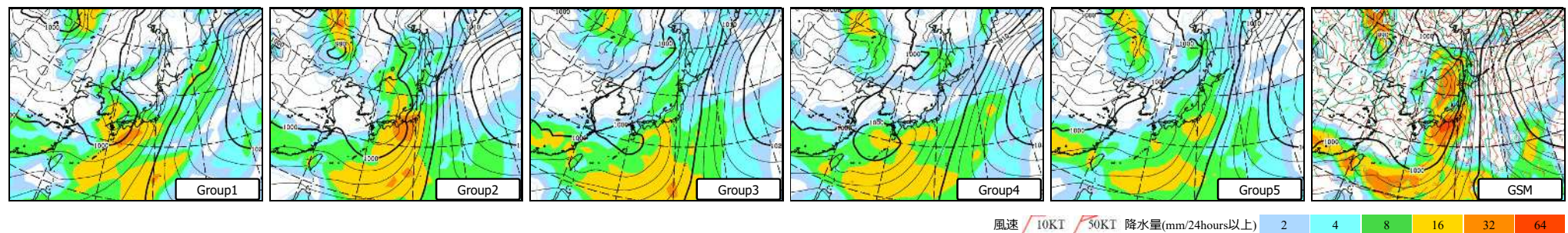


- 北日本と東日本日本海側は、晴れる所もあるが雲が広がりやすく、14日と15日は雨の降る所がある。
- 東日本太平洋側と西日本は、11日から13日にかけては雲が広がりやすく雨の降る所がある。14日と15日は曇りや雨の降る所が多い。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆7月14日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、11日から12日はオホーツク海へ進むリッジが強まった。また、13日から14日頃は日本付近へ進むトラフが深くなった。
- 各モデルとも、13日から14日頃は日本付近にトラフを予想しており、東シナ海から本州南岸に熱帯じょう乱を予想しているモデルもあるが、位置や発達にはモデル間の差がある。
- スプレッドは、期間の終わりは大きく、日本付近のトラフの動向には不確実性がある。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。

今日から明後日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。